

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

おはようございます。3月議会の一般質問、ただいまより始めさせていただきます。

けさ事務局に着いたときに、「一般質問は、登壇して2分で大体その日の調子の決まあもんな」と2番議員の山口等議員から言われまして、そがん言うぎそがんにゃと。

ただ、一般質問って、私は常々考えているのは、例えば9月議会で一般質問をした。そして、次は12月議会。9月議会で一般質問が終わったら、次の12月議会へ向けての勉強を日々、私はしてきているつもりなんです。そして、今回も12月議会終了後、1月に入ったら何をしようか、どういうふうな問題点に取り組もうかという気持ちの中で日々過ごしているところでもあります。

しかし、その3カ月間の中でも、一生懸命自分がしたその気持ちを一般質問であらわすときに、自分が4日目に当たった。皆さん方それぞれに思いを持って一般質問される。その中で、自分と同じ質問をされる方、何人とおられます。あら、これもかぶった、あら、この人もやった。せめて執行部の皆さん方が、それはこの人もこういうふうな質問ばしてくいよんさあよと言っていたら、私もそれなりに考えることもできるでしょう。私もこれだけ市役所に来よって、これだけ市の職員さんから信用のなかかと思うと本当に涙の出るごたつたです。

でもですよ、議会から議会まで、市役所で見たことない人の、それは来よんさあかもわからんですよ、私がたまたま会わんとかもわからん。そういうふうな議員さんたちが一般質問ばしよんさあときに、どういうふうなやり方で一般質問ば勉強しよんさあとやろうかて、いつか聞きに行かんばいかにゃと思ひながら、一般質問に入りたいと思います。

昨日のある人の一般質問の中で庁舎問題の話がありましたけれども、私、特別委員長として、私のふがいなさで皆様方に迷惑をかけたというのは、私がここで謝るべきかどうかと考えておりますけれども、結局、機構として庁舎を幾らに評価をしていただけるかという問題がありましたもんですから、なかなか庁舎のことについて触れることができなくて延び延びになっておったことは事実であります。

まず市長にお尋ねは、今後の庁舎のスケジュール、結局、我々委員会に来たのは、1番目が耐震補強、2番目がここでの建てかえ、3番目は云々——3番目はまだ論議をしておりますので、そういう中で市長としてどのように考えておられるのか、まず答弁を願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私の考えを問われましたので、お答えをしたいと思います。

3案の中で、私は現在地を中心として拡張ということで考えています。現在地を中心とし

て拡張建てかえということを考えております。その中で、最終的にこれを決めるのは議会です。なかんずく、山口昌宏議員が委員長である特別委員会、議会で決めて、それは最終的な合意として議会でお決めになる話ですので、私の考えを申し述べます。

これに関して、今後のスケジュールでありますけれども、合併特例債を主に充当するということから、これは建設計画を立てなければいけません。それが要件になっておりますので、これを来年度の9月議会——ことしの9月議会ですね。9月議会に私どもから提案をして、議会で御議決を賜ると。それに基づいて実際、話が進んでいくという段取りになります。

実際、合併特例債は、本来ならば今年度で切れていた話でありますけれども、これは5年間延びました。5年間、民主党政権下で延びた。ですが、国は信用なりません。私もいたので、よくわかります。ですので、なるべく早くこの財源が空にならないうちに使うということが大切だと思っております。したがって、今のところのスケジュール感としては、私どもとしてはこのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

ただいま市長の答弁の中で、現在地を中心とということと、財源は合併特例債を充てたいという2点がありましたけれども、現在地を中心とということとは、現在地、ここなのか、あるいは、ここを中心とした今現在ある庁舎周辺なのか、そういうふうなものを含めてどのようなお考えなのかをもう一度答弁いただきたいのと、財源、合併特例債どうしても使わばいかん、合併特例債なくして庁舎は建たない、私もそう思っているんです。なぜかというと、庁舎というのは、一般財源、要するに補助金なしの財源でしか庁舎はできないということなんでしょう、通常は。そういう中で、今回7割は交付税措置ができる合併特例債があるということで、これは新市の建設計画の見直し、これが必要じゃないかと思うんですよね。そういう中で、市長としてどのようにお考えなのかを御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはちょっと相手のある話でもあるんですね。ですので、ここはちょっとつまびらかに申し上げるわけにはいきませんが、基本的に、新幹線の用地ということで武雄市の今の敷地が大分とられます。ですので、ここだけで建てかえるというのはあり得ない話なんです。したがって、ここを中心として、恐らく1つの庁舎じゃなくて、多分そのエリアの中で複数の庁舎になることを私は想定しています。大きいこう、どんじゃなくてですね、武雄らしい、きちんと景観、あるいは環境に配慮したようなものにならざるを得ないということを考えていて、これは単に市役所だけじゃなくて、これも相手のある話ですので、私の希望

だけ申し上げますけれども、でき得れば商工会議所さん、あるいはJCさん——青年会議所さん、それと武雄町の公民館、さまざま要望がございます。これは婦人会であるとか、さまざま市民の皆さんたちから集まって議論できる場、会議ができる場も、ぜひこの中心のところに欲しいということでもありますので、そういう意味でいうと、単に市役所機能だけを持つ建物ではなくて、さまざま市民の皆さんたちが集って活用できるような市役所を私は目指してまいりたいと思っております。

その中で、財源なんですけれども、先ほど議員御指摘のとおり、普通交付税で7割が算入される合併特例債を活用したいと思っております。その中で、私どもとしてはこれを見越して——ちょっと待ってくださいね。つくりました。モニターをお願いします。

(モニター使用) まずですね、いろんな努力をしていきました。職員数についても、これは合併の件と病院のことで大分これだけ減ってきております。62人の減であるということと、それともう1つ大きいのは、財調基金及び公共施設基金残高の推移なんですけれども、我々は今まで新たな箱物はつくってきませんでした。あるものを活用するというので、図書館もそうなんですけれども、可能な限りあるものを活用すると。この間、例えばバナナのたたき売りとか平野議員さんとか江原議員さんからも厳しく言われていますけれども、病院をきちんと4億数千万円で売ったりとかいうふうにして、我々がさまざま努力をして積み上げてまいりました。これも財源の大きな一つになって、基本的には市民の皆様方に可能な限り負担をかけないということで私どもは考えていっております。

そういうことで、先ほど申し上げましたとおり、財源というのは非常に貴重な話でありますので、これは繰り返し申し上げて恐縮なんですけれども、合併特例債を活用しつつ、先ほどの財源について、それでも足りない部分は公共施設整備基金等できちんと充当をすることで、繰り返しになって恐縮なんですけれども、きょうも傍聴がたくさんお見えになって、顔見知りばかりなんですけれども、市民の皆様方に可能な限り御負担をかけないということで、市民の皆様、市民の皆様方による市役所をつくってまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

実はこの次に、「市長、市の財政大丈夫や」と聞こうで思ってたんです。そいぎ、今モニターで見せていただきましたとおり、合併特例債、あるいは今、武雄市の財源の確保等々を見ましたときに、何とか武雄市の新庁舎ができるのかなと。

ただ、庁舎建設というのは、我が武雄市にとっては本当に一大事業なんです。先ほど市長の答弁の中に、いろんなゾーンをつくって分散型を試みたいとかいう話がありました。しかし、庁舎を1つつくって、仮に庁舎、あるいは何かを3カ所つくったら、そこには設備

が3カ所分は要るわけですね。そいぎ、コスト的にどうなのかという部分も出てくるわけ。ということは、これは節電になるのかならんのかという部分も含めて、やっぱり今後考えていかなければいけないと思うわけですね。その点について市長の認識はどうなのかというのをお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この点については、私も市民の一人なんでね、自分の考え方を申し述べたに過ぎません。決定権は全て議会にあります。ですので、今、市民から成る検討委員会、そして私どもの武雄市役所、そして皆さん方の議会、三者で最終的には決めるということになりますので、やっぱり万機公論に決すべしだと思います。先ほどの私が、分散型といってもそんな遠くじゃないですよ。限られたエリアで複数の棟があるほうが、私は災害時のことを考えた場合に、1つだけだとどうしても、それが全部機能がストップするということにもなりかねませんので、やはりいろんなことを考えた上で分散型と思ったんですけど、確かに議員がおっしゃるように、トイレも3倍になるとか、いろんな設備が2倍から3倍になるんじゃないかという御指摘もよくわかりますので、それは具体的にはきちんと、きのう朝長議員からもありましたけれども、第1段階はまず場所を決める。その後、そういうあり方についても第2段階としてよく御議論いただければありがたいと思っております。

きょうの私の答弁で、きょうは佐賀新聞も西日本新聞もお見えになっていますので、多分これはあした大きく載ると思います。多分1面トップで載ると思いますので。ですので、これで市民の広範な議論を期待したいというふうには思っております。我々のための市役所じゃなくて、あくまでも市民の皆さんたちの市役所という視点を忘れないで、我々としてはまた引き続き御検討に参画をしないと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

私たち特別委員会で三重県の松阪市に行ったときに、議長さん、前議長さん、あるいは今の市長さん——現市長さんが37歳で、当選されたばかりの市長さんだったんですけども、その市長さんとお会いする機会を得まして、今の市長の答弁を聞いたときに、うちの市長、まともでよかったにやあて本当に思いました。この松阪市長どうやろうか、鹿児島島の阿久根市長とどっちがどうやろうかというくらいの元気な市長さんですね。よかったにや、武雄市長はまともでと本当つくづく思いました。これは報告です。

それでですね、今、庁舎をつくるための組織として市役所の中に置かれておりますけれども、執行部として具体的に決める業務の執行体制、要するに、庁舎をつくるためにはどうす

るかという業務のやり方、執行体制をもっと強化するべきじゃないかと思うわけですね。今3人で恐らくこの大きなプロジェクトに向かってやられておりますけれども、仮に昇格でもさせて、ちゃんとした庁舎建設のための部署をつくるのはいかがかと思うんですけれども、どうなのかと思うんですけれども、その点についての答弁をもらいたいと思いますけど。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御指摘を踏まえまして、4月1日付で庁舎対策課を設置します。庁舎対策課を設置して、課長には平川を登用します。うちのエースを登用します。ますますやせるでしょう、これで。

あわせて、ちょっとこれは今後議会ともよく調整をしなければいけない話なんですけれども、今後のスケジュール感、ボリューム感によって、どれだけ人を4月1日に配置するかということがありますので、いろんな人材を庁舎対策課に、放り込みたいと言ったらあれですけど、きちんとしていきたいということを思っております。恐らく9月から多分本格的になる話だと思うんですよ、この庁舎というのは。ですので、そういう意味も踏まえて、もう4月からきちんと専従体制をとっていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしても、一大プロジェクトですので、落ち度のないように頑張ってくださいと思います。

では、2番目の図書館の今後ということについてお尋ねをしていきたいと思います。

4月オープンに向けての図書館を、市長は今どのような思いで図書館オープンを待ってられるのか、まず、それからお尋ねをしていきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとスクリーンを出してほしいんですけれども。

（モニター使用）これが本邦初公開になります。3月になってから撮った写真であります。今どういう状況になっているかというと、ここにどんどん本が運び込まれています。CCCの皆さん、職員の皆さん、そして、これはボランティアの市民の皆さんたちが多く集っていただいて、山口等議員もボランティアに参加してもらいましたけれども、そういった中で、どんどん今、本が入ってきています。きょうの昼もちょっと視察に行こうと思っているんですけれども、きのう時点で6割から7割、本が入っています。

これは真っさらの空の状態、ちょうど皆様方から見て左側のところにスターバックスが

入ります。スターバックスで、もう今、実地の研修が行われています。きのう、スターバックスの本社の方もお見えになっていましたので、昼休みに伺ったところ、ここまですごいとは思わなかったということはおっしゃっていました。きのうのブログにも書きましたけれども——書いたかな、フェイスブックだったかな、ちょっと忘れましたが、私も図書館大好きです。今まで好きだった図書館が、ニューヨークのパブリックライブラリー、それと東大の総合図書館が私は一番好きだったんですけれども、それを上回っています。正直言って、これね、結構本当に笑いが出てくると思うんですけれども、これを見たときに皆さん多分そういうふうに思ってくださいと思うんですよ。ね、上田議員。ですので、そういう観点から今非常にわくわくしております。恐らく、プラカード持って反対された人たちも、これを見たときに一体どういう感想をお持ちになるかということは何となく伺ってみたいと思います。

もう1枚ありますけれども、今こういう状況で作業が進んでいます。これは今まで閉架していたところのスペースなんですよ。市民には閉ざされたスペースだったのが開架をして、ここのブルーシートのところにはテーブルがつかます。ここでも学習をする、あるいは本を読めるというような環境に相なります。

そういった中で、あと当然のことながら、これはよく写っていますけれども、LEDを全部入れて環境にも配慮をしつつ、それと、商業用と違って非常に目に優しい、体に優しいという照明になっていますので、皆様方には自宅の延長として、御自身の書斎であるとか、図書室であるとか、そういう延長としてぜひ使ってほしい。子どもたちには、ちょっと写真は用意しませんでしたけれども、今までの1.4倍のスペースも、きちんと一番日の当たるところに確保しております。ですので、庁舎もそうなんですけれども、これは市民の皆さんたちの図書館だということで、ぜひ御活用願いたいと思っております。そういう意味で、こういうふうに準備が着々と進んでいますので、4月1日を控えて非常にわくわくしているところであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

ちょっとここで話が横道にそれますがけれども、私は先日、陸前高田と、それから仙台市に、市長と一緒に、あるいは特別委員長と一緒に追悼式に出席をさせていただきました。そのときに、陸前高田で被災者の代表として挨拶をされましたけれども、その挨拶の中身を聞いたときに市長がどのように思われたのか、まずそれをお聞きして次に進みたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

追悼式は、小池一哉被災者支援特別委員長と一緒にさせていただきました。

小島さん——私と同年代の方なんですけれども、一緒に住んでいた御両親と奥さまと一人娘、7歳の娘さんを、さきの大震災の津波だと思えます、津波で一瞬のうちに亡くされた。小島さんのお言葉の中でこのようなことがありました。7歳の子が、生きていればこれから恋をして、自分が好きな人と結ばれて幸せな家庭を築いたろうと。この津波で、一瞬のうちに彼女の夢もついえましたというような趣旨をされたんです。その一方で、小島さんが気丈にもね、これから市民は頑張っていると、陸前高田が劇的に変わるだろうって、劇的に変わるって。それを娘と一緒に見ていきたいということをおっしゃって、津波からはまだ2年——まだ2年とおっしゃったんですよ、もう2年じゃなくて。これから本当の復興が始まっていきます。見届けてくださいと。そして最後に、市民の皆さん、それと日本国中の皆さん、そして世界の皆さんたちに、こんなに温かく支援をしてくださってありがとうございますということをおっしゃったときに、やっぱり魂が震えましたね、本当に。ですので、こういう頑張っておられる方がいて、僕らはやっぱり同じ日本人としても、同時代に生きる者としても、できることは最大限やるのが我々の務めだと思います。ですが、我々も遠く離れています。ですが、皆さんから言われたのは、やっぱり細くてもいいから末長く続けてほしいということをおっしゃいましたので、そういう気持ちを新たにしたいところでありたい。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

そういう中で、追悼式が終わって、陸前高田で作業をした大坂さんという方に会う機会がありまして、大坂さんとお話をしました。

その中で、大坂さん本人は——奥さんなんですけれども、本人さんは去年よりも元気な姿。私の今の目標は家を建てたい、どんなに小さくてもいいから建てたい。しかし、自分の旦那さんが今病気で入院中だ。それもかなわん。そういう思いを自分は持っているけれども、遅々として進まない今の現状を切々と訴えられたということなんです。

そしてその次の日に、仙台の、それこそきのうの話じゃないですけれども、議会のたくさんの方々が仙台に行って大友さんという方のお話を聞き、大友さんの家の復興を願って作業をしたわけなんですけれども、その大友さんも、もう百数十年はたっているであろう家を修復されて、そこで生活をされています。そして、帰りにですね、大友さんは、このトマトを持って行って食べてくんしゃい。我々行った人数分だけ袋に入れて、このトマトを佐賀まで持って行って食べてよと。人と人とのつながり、まさに支援の輪、これはきょう一遍したから、今回一遍したからじゃなくて、末長い支援をずっとしていかないと本当の支援とは言

えないんじゃないかなとつくづく思いながら宿舎に帰ったんです。そして、宿舎に帰ったら——モニターお願いします。

(モニター使用) 宿舎に帰ったらこれなんです。これが出てきた。これは何か。プラカードです。どこでプラカードば立てとんさあですかと。図書館の敷地内と。図書館の敷地以内ば——教育委員会にお尋ねをしたとですけども、そいぎ、あなたたちは許可はちゃんとやりましたか、許可書はもろうたですかと聞いたんですけども、返事がないんですけども、教育長いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

白濱教育部理事

○白濱教育部理事〔登壇〕

武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会が、図書館内の敷地を通過されたということで、その経過について御説明します。

去る3月9日に……

〔19番「いや、もう経過は要らん。経過は要らんけんが、ここに許可を出したか出したらんかだけ言うてよ」〕

許可は出しておりません。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

ということは不法占拠ですか。看板は「茂義公が泣いている」って。誰かがさっき「茂義公はあんたの父ちゃんやなかや」て。うちのおやじも重義とついておりました。笑い事のような本当の話なんです。本当の話をすると、うちのじいさん、要するに重義さんのお父さんと鍋島さんが物すごく仲がよかった。酒飲み仲間だったそうです。それで、うちのじいさんが私の親の名前を重義とつけたと私は小さいころずっと聞いておりました。字はちょっと違うですけど。やっぱり恐れ多いと思ったんでしょうね、字なりとん変えとかんばと思うて。

これ見てもらっていいですか。「文字活字文化を」って。さっきの市長の、あるいは子どものための図書館をと。子どものための図書館は1.4倍になりましたと市長は今言ったでしょう。そして、もう一度戻って、「ソーシャルメディアより文字活字文化を」と。図書館の中を見たときにこれができるのかと、こういうふうなことを書けるのかと。

私が最も許しがたかったのは、もうけさ本人さんに承諾を得ましたので言いますが、共産党の平野議員さんがこのプラカードを持って行進をされております。私に言わせれば、平野議員さんは常任委員会のお酒を飲んで出席をされております。その議会に対する釈明もなければ、市民に対するわびもない。そういう中で、こういうふうなプラカードを持って立つ、最も許しがたい、私はそう思います。市長としてはどがん思うですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も市長に就任させてもらって7年になろうとしているんですけども、いろんな方がいらっしゃいますよ。本当に頑張っておられる方、そして議員といっても足を引っ張るばかりの方、いろいろいらっしゃると思います。ですが、我々はやっぱり市政をきちんと行う上では、多くの市民の、特に弱い立場に置かれた皆さん方の意見をきちんと聞いて、それで進めるべきだと思っていますので、そういう意味では、前はいろいろちょっと気になったんですよ。だけど、このごろは、もう何か叱咤激励と思うようになりました。強くなりました。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

こういうふうなプラカードを見て、そして帰ってきて、武雄市は平和でよかったにやと、本当にそう思いました。それはなぜか。東日本のあの震災を受けた被災者の皆さん方は、今も仮設住宅に住んで、学校もなく仮校舎なんです。校舎があるかと思えば、グラウンドは仮設住宅なんです。図書館もなく読む本もないんです。家族だって今もわからず、二千数百人の人がまだわからないでおります。武雄市は、こういうふうなプラカードが立てられるような、要するに何もない武雄市でよかったな、反面本当に思いました。プラカードを持って行進をされた皆さん方も、その辺のところをお酌みいただければ本当にもっといいのかなと。今ですね、二重苦、三重苦、本当に四重苦に遭っておられる被災者のことを思えば、武雄市に生まれたことを感謝して、私は今一般質問をしております。

ただですね、次に入りますけれども、これは何だと思えますか。ちょっと大きくします。

「市議会も情緒的に推移し科学的な議論も無く、市長派の議員多数を持って素通りしてしまう。」、井上さんの文なんでしょう。「指定管理者の突然の発表に驚く」と書いて。「市長派の議員多数を持って素通りしてしまう。」、まさに議会の冒瀆やないですか。

〔23番「何に書いてあつと。それはでたらめやなかと。何に書いてあつと」〕

ちょっととめてから配付していいですか。

〔24番「議長、そういうやり方すると。そのとおりに出てきたのを……」〕（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

文書配付ですか、資料配付。

〔23番「それが何に書いてあるかが聞きたいだけです」〕

〔24番「配付せろて言わんばいかん」〕

○19番（山口昌宏君）（続）

ちょっとすみません。

「どうなる？みんなの図書館・歴史資料館」ということで、文化会館の大集会室Aであったときの資料です。これを見たらちょっとわかりにくいですが、それでも、「市議会も情緒的に推移し科学的な議論も無く、市長派の議員多数を持って素通りしてしまう。」。これを議会の冒瀆と言わずして何と言うですか。（「議論したたいね、あがしこ」と呼ぶ者あり）自分たちのしたことが通らんやったら議論をしていないというんですか。

〔市長「いつもそうたいね」〕

最も失礼な言い方ですよ。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

私語を慎んでください。質問を続けて。

○19番（山口昌宏君）（続）

あなたに聞きよつとやなかでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

私語を慎んでください。

○19番（山口昌宏君）（続）

そして、こうもあるのよ。「その市民アンケートも、偏った情報提示・市職員立会いという誘導性の高いもので、70%の数字が今回事業の市民賛成数に置き換えられ……

〔市長「これは市民ばばかにしとる」〕

一人歩きしている」。私が言わじも、市長が今言いましたね。市民をばかにしている。民主主義の原理・原則は何ですか。多数決でちゃんと決まったら、議会が通ったら、それに従うのが議員の役目じゃないですか。それをですよ、自分たちのしたことが通らんやったら……（「あっち見て、あっち見て」と呼ぶ者あり）通らんやったらね……（「あっち見て言えて。おいがないばしたや」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かにして。

○19番（山口昌宏君）（続）

おいがないばしたやで……（発言する者あり）ということだそうですね、本当にですよ、これが通るものか。何か市民をばかにしたような書き方なんです。自分たちがしたのが通らんやったら何でも反対ですかと。もう議会が議決をしたら、それは議会の手を離れ、民意としていくとなっている、法律で決まっているんですよ。それをですね、こういうふうなやり方でするのはいかなものかと思うんですけれども、これは市長に答弁を求めるのはなかなか酷かもわかりませんが、今の気持ちとしてどう思われますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まあね、いろんな市民の方もいらっしゃいますよ。だから、あんまりもう目くじらを立てないで、僕は人のいいところをこれから見ていこうと思います。誰もね、山口議員だってそう、私もそう、やっぱりいいところがあると思うんですよ。それを見て、やっぱりそれを市政に取り入れていきたいというふうに思うんですね。

だけど、僕がちょっと許せないのは、これね、井上一夫さんという方、僕はあんまりよく知らない人なんですが、その文章を見たときに、本当に事ほどさように人をばかにしているなどというのはよくわかりましたよ。議会がばかにされ、市民——この文言ですよ、「その市民アンケートも、偏った情報提示・市職員立会いという誘導性の高いもので、70%の数字が今回事業の市民賛成数に置き換えられ一人歩きしている」、これほど市民をばかにした文言というのは僕は初めて見ましたよ。ですので、まあ、そうは言ってもね、もう今ごろ井上さんも反省されていると思います。僕はそういう方だと信じています。ですので、もう4月1日以降、図書館が、やっぱり市民のための図書館だということになりますので、どれほど知見がえられるか僕は知りませんが、ぜひ前向きにいろんな意見に参画をしてほしいと。

それともう1つ、今ちょっと手元になくて正確には申し上げられないんですが、集会するのは僕は自由だと思います。ですが、全然何か市民に説明がないとかとおっしゃっているんですよ、この方々は。我々は市民説明会、数回しています。公式にも非公式にも非公開でも、要望があった場合にはしています。その中で、井上一夫さんという方は一回も来ていないんですよ。これは誹謗中傷じゃないですよ。一回も来ずしてね、かつ、市からの十分な説明がないと、説明責任を果たしていないということをおっしゃるというのは、これはいかなものかなということを考えていますので、もうね、そういう政争の具にするのは病院問題でやめましょうよ。だから、図書館は最も政争の具にしてはいけないものだと思いますよ。ですので、そういう意味でね、今まで集会に参加された議員さんとか、プラカードを持った皆さんたちというのは、やっぱり今後ちょっと心根を入れかえてもらって、前向きにいろんな御意見を賜りたいと思いますし、我々もいろんな立場の方々でいい意見たくさんいただきます。それは十二分に踏まえていい図書館にしていきたいと。武雄市の誇りになる、茂義公が泣かない図書館を目指してまいりたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員（発言する者あり）

静かにしてください。質問者、質問を。

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

質問してよかですか。

○議長（杉原豊喜君）

どうぞ。

○19番（山口昌宏君）（続）

そしたら、質問の続きばしてよかという許可をいただきましたので、次の質問に移りたいと思います。

次の質問は、市長の今後の政治姿勢についてということで出しておりました。

その中で、きのうの夜もちょっとあったんですけども、新幹線の西九州ルートですね、きのう東川登の袴野というところで説明会がありまして、西九州道の上の高架でそこ行きますよという説明が、入札があったものですから説明があっておりました。そういう中で、けんけんがくがく、いろいろ話があっておりましたけれども、私は今回、市長の政治姿勢として、新幹線の西九州ルート、武雄温泉から長崎間は確かにフル規格でしょう。しかし、鳥栖でフリーゲージになすときに5分かかりますよ。武雄で今度は広げるとに5分かかりますよと。そいぎ、かかる時間10分なんですね。新幹線、仮に300キロで走って10分間やったら何キロ行くですかね。もうおいが頭では勘定しい切らんと早う行くですよ。それを考えたときに、果たしてフリーゲージで、まだ試されてもおらん、できてもないという中で、市長として、どういうふうな今後の持っていく方を思っておられるのかを御答弁願えればと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もうもともとの持論なんですけど、私は全線フル規格。どこかで変わるとかいうのは、もう中途半端過ぎますよ。日本の公共事業の悪いところはここなんです。だから、費用がかかるからといって、もう非常に費用対効果が悪いものをつくってしまう、その見直しすらないって。これ全然日本って変わっていないんですよ。ですので、そうはいつでも、これで佐賀県並びに武雄市の負担がふえるということになると、それはちょっと市民合意とか県民合意がとりにくいと思いますので、県民、市民負担がふえない、だから、要するに国がもっと出せと。これはね、新幹線ってある意味、国策なんです。台湾もそう、中国もそう。だけど、日本政府は何言っているかっていうと、地方の政治スキームにして、本来国策であるのを地方に押しつけているだけなんです。ですので、そこはね、やっとなまな政権にまたかわりましたので、そのときに役割が大きいのはやっぱり公明党なんです。ですので、そこを、やっぱり新幹線というのは単に利便性が増すだけじゃなくて、公明党さんがおっしゃっているように、防災・減災も踏まえて、これは物資の輸送も踏まえて最も安全だということ、そこに新たな公共事業として加味しておっしゃっていただいて、その上で、やっぱりスキームの見直しについて僕らは求めていきたいと思っています。

そうなったときに、路線もありますけれども、一石三鳥ぐらいなんです。その高架にフル規格を入れるとなると、沿線どこも反対しているのは、要するに踏切の話であるとか、振

動の話であるとか、そういったことを物すごく沿線の首長さんたちは御心配されているわけですね。ですので、そういう安全対策にもなりますし、そういうことを我々政治家がやっぱり声を上げていくべき必要があるだろうと思っていますので、今度の安倍内閣には僕は期待しています。これを見直ししなかったらね、もう見捨てます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

要するに、今さっき市長からもありました新幹線の整備に係る財源のスキームですか、地方負担が今3分の1ですね。しかし、ここでよく考えていかんばいかんとは、例えば東海道新幹線、山陽新幹線、東北新幹線、上越新幹線、北陸新幹線の高崎から長野、この部分については全て、さっきの市長の話じゃないですけど、国策として全額国の負担なんです。そして、今3分の1は地元負担をなさいと。これはずっと年号ば見よったら、平成20年、民主党政権になってからのごた感じになっとうとですよ。言い方は悪いかもわかりませんが。今、国は景気対策としてあらゆる手を打っております。今が私はチャンスじゃないかと思うんですね。今、国に対して要望をしていかなければいつするかというような時期だと思うんですけれども、その要望の仕方はどういうふうな思いでされるのか、御答弁願えれば。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これこそね、嬉野市さんも加わっていただいて佐賀県が声を上げるべきだと思うんですね。先ほど申し上げたとおり、とまらない自治体があります。ですが、これもフル規格、高架をすることによって、我々が乗れる土俵をきちんとつくって、点ではなくて面として——線ですかね、線として面として国に働きかけると。

僕がショックだったのは、古賀誠先生にお目にかかったときにね、引退された後に会ったときに、この話、全然御存じじゃなかったんですよ。だから、もう少しね、佐賀県選出の国会議員はしっかりしてほしいですよ。どうですか、自民党の支部長さん。だから、きちんと意思決定をされるルートに、全然、野党時代に声が届いていないんですよ。ですので、これはね、地元選出の国会議員はもっと、1区、2区、3区、頑張らなきゃだめだと思いますよ。特に2区は頑張してほしいと思いますので、そういうふうにして、やっぱり市民、県民、国会議員ですよ、最後、国会が決める話、スキームになりますので、もう少しね、我々も反省しています。やっぱり遠慮していました、今まで。ですので、皆さんのお力をかりて、市民の皆さんたちの、商工会議所等々のお力をかりて、きちんと声が届くようにしていきたいと。これが日本国のためなんだと、我々、佐賀県民とか武雄市民だけじゃなくて日本国民のためなんだということをしっかり言っていく必要があるだろうと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

まさに私もそう思うわけです。というのは、先般——これは党名言うていいのかな、我々の党の総務委員会がありましたときに、2区選出の国会議員さんに、「あなた出身どこですか、あんたJR出身やろうもん」て、「新幹線フル規格、そういうふうなためにあなたは国会に行たとうとやろうもん。ちっとしっかりしてくんさいさ」て、私は本当に言いました、私は。そいぎですね、皆さん方から拍手の沸いたです。総務委員会のときに、ほかの委員さんから拍手の沸いてですね、これはほんなごとて。本人全くわかつとんされんやったです。それで、帰りに何て言いんさったかというぎ、「山口さんお互いに頑張りましょうね」て、こうですよ。いや、本当にそうやったです。牟田議員、そうやったですね。もうそんなくらいにですね、ほかの議員さんたちはよう言うてくいたて、それがほんなごとさいて。（発言する者あり）いや、そんなくらいにですね、我々議員もやっぱり今から先みんな一緒になって、今回の新幹線のルートはやっぱりフル規格やなからんばいかんという、それともう1つは、やっぱり財源がないこの武雄市、この佐賀県、長崎県を含めてですね、国が出さんばやろうもん。これは本当に地方にとっては物すごく厳しい財源なんです。金があるところはただでして、金がないところは、要するに昔の大名と一緒に、参勤交代まではしませんけれども、そういうふうなやり方と全く一緒なんです。

そうじゃなくって、やっぱり地方には優しく、本当の意味での財政的な支援をしてもらうように、我々を含めて行政としても頑張っていかなければいけないと私は思っておりますので、お互いに頑張ろうということで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

〔24番「議長、緊急な議事進行」〕

議事進行に緊急も何もあんもんや。

○議長（杉原豊喜君）

ちょっと待ってください。

以上で19番山口昌宏議員の……

〔24番「いや、その発言の中身ですから」〕

〔19番「だめさ、終わらんぎ」〕

〔24番「なら、終わってください」〕

質問を終了させていただきます。（発言する者あり）静かに、静かに。

以上で19番山口昌宏議員の質問を終了させていただきます。

24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）

今の発言の中で、私は本当に、議員の発言はそれぞれの立場でおっしゃっているのはいい

ですけれども、平野議員がお酒飲んで委員会に出席したという発言をされました。前の晩に、それは疲れとか、気持ちを安らげるために一口は飲んであるでしょう。しかし、それをあえて議会でそういう言い方をしておかしいじゃないですか。（発言する者あり）だから、それは大事なことから、あえてですね、議会が終わったらどっかに行ってしまう、その話だけがひとり歩きするんですよ。もっときちんとしてください、そういうことについては。

〔19番「議長、議事進行」〕

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）

議長、ちゃんと精査してくださいよ。私はですね、前回の一般質問の中で、平野さんが私に朝7時過ぎに電話をして、自分はそのとき酒を飲んどったと自分で言われたんですよ。谷口さんは何も知らんとですよ、それは。私が聞いたんですよ。そして、12月の議会で私はそれを言いました。何ば私が捏造しとるですか。ああいうふうな言い方を、許可をするのはおかしいじゃないですか。精査をお願いします。

〔24番「ちょっと、捏造てしたことないよ」〕

捏造やんね。何も……

〔24番「いや、それだけ言わせてくださいよ。大事なことから」〕

○議長（杉原豊喜君）

暫時休憩をいたします。

休 憩 9 時57分

再 開 9 時57分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

ただいまの議事進行につきましては、谷口議員が言われるのもいかなものかと思うんですよね。

〔24番「誰が言うんですか」〕

本人が言われたらわかりますけど、谷口議員が、あなたが内容をわからないでそれを言われますから。（発言する者あり）

ですから、後で内容を精査して御報告をいたします。

ここで、議事の都合上、10分程度休憩をいたします。